

提出締切：2009年4月20日（月）

2008年度 研究の国際化推進プログラム「研究成果の国際的発信強化」 報告書

研究代表者	所属機関・職名： 産業社会学部・教授 氏名： リム ボン
研究テーマ	A City under Siege: Saving Kyoto's Machiya from Destruction

I. 「成果発信」の目的・意義の概要

今回の国際的研究成果発信の目的・狙い、意義・必要性について、簡潔、明瞭に記入してください。

京町家を核とした歴史的町並みの保全・再生事業は京都市にとっての主要な行政課題であるばかりではなく、多くの市民にとっての関心事でもある。とりわけ、過去10年間、京町家の文化的・経済的価値が再認識され、空前の京町家ブームが訪れた。これと軌を一にして、京町家の再生プロジェクトも急速に進展してきた。これは、20世紀後半、近代化と経済合理主義の波に吞まれ、数多くの京町家が破壊され、歴史的町並みが混乱し、都市の記憶喪失に陥りかけたことに対する危機意識の現われでもある。そこで、2005年9月、『京町家まちづくりファンド』が設立され、京町家の保全・再生を支援する新たな政策がスタートした。これを補うように、2007年9月には、100年後の京都の将来を見据えた新たな景観政策が実施された。しかし、最大の難問は、資金調達である。そこで、2008年11月、近代都市文明の象徴であり、かつ歴史的町並みの保全においても多くの成果を蓄積しているニューヨーク・マンハッタンを舞台に、世界的視点から、京町家の再生のあり方を議論することとなった。議論の手順は次の三点である。まず、京都の現状と京町家再生プロジェクトの経験を米国の財団経営者たちとシェアする。次に、伝統的都市住宅の保存・再生のあり方と資金調達の可能性について、米国の専門たちから助言をいただいた。そして、その助言をもとに、日米の専門家たちが意見交換を行った。さらに、『京町家まちづくりファンド』への共感と賛同を喚起し、具体的な支援策を協議した。

II. 「成果発信」の成果と今後の展開計画の概要

今回の国際的研究成果発信で得られた成果、目標達成度、今後の展開計画について、ポイントを絞り具体的、簡潔に記入してください。

11月3・4・5日のワークショップならびに公開シンポジウムでは予想をはるかに超える成果が得られた。以下、その要点を記す。

(1) ワールド・モニュメント・ファンド(WMF)への訪問

11月3日午後2時にWMF本部を訪れ、ポニー・バーナム理事長らと町家再生について協議した。「WMFは個人の私有財産への支援をしないことが原則であるが、町家のことを考えると、その原則を変えてでも申請を受け入れるべきだと思う」と明言してくれ。

(2) ジャパンソサエティでのワークショップ

11月4日の午後と5日の午前、二回にわたるワークショップが開催された。ルース・エーブラム氏ほかは錚々たる顔ぶれだった。

(3) アメリカン・エクスプレス・ファンドでの会談

11月5日の午後3時から4時までの1時間、アメックス・タワーにあるアメリカン・エクスプレス・ファンドを訪れ、プレジデントであるティモシー・マッククレイモン氏と会談した。

(4) 5日の夜に開催された公開シンポジウムは熱気を帯びたものだった。

(5) 2009年3月15日、WMFの世界ウォッチリストに京町家を申請し、受理された。2009年4月15日には、WMFのヘンリーNG副理事長らが京都を訪れ、申請物件の視察などを実施する予定である。

本ページはホームページに公開いたします。1ページに収めてください。